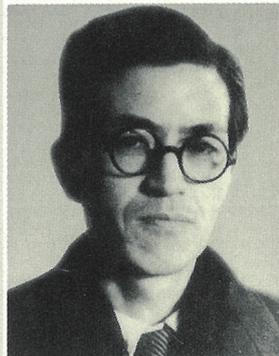


戦後初めての本格的な朝鮮人作家の日本語作品資料集成

写真(上から)金史良、李光洙、林和、俞鎮午



大村益夫・布袋敏博編・解説

近代朝鮮文学

第一期

一九三九年〜一九四五年

全九卷



日本語作品集

創作篇(全八卷)

第一回配本

評論・随筆篇(全三卷)

第一回配本

緑蔭書房

『近代朝鮮文学日本語作品集』(第一期)刊行にあたって

『近代朝鮮文学日本語作品集』(一九〇二〜一九四五)を二期に分けて刊行する。今回刊行の第一期は、一九三九年から一九四五年八月一日までに、朝鮮人によって書かれた日本語の作品と、日本語に翻訳された作品を選択、集めたものである。作品は可能な限り初出から採り、新たに発掘した資料も少なくない。また、文学作品に限らず、朝鮮文人協会や朝鮮文人報国会の声明や決議文、大東亜文学者大会での文学者の発言等も、時代を表わす証言として収録した。

対象とした時代は、今日韓国の学者たちが「暗黒期」と呼ぶことからわかるように、朝鮮人文学者たちが、日本語での執筆を強要されて最も苦悩した時代で、ある者は筆を折り、ある者は心ならずも筆を執り、ある者は変節を余儀なくされた苦難の時であった。したがってこの時代に日本語で執筆することとは、とりもなおさず、いわゆる「親日文学」に手を染めるといふ批判を免れたい行為であった。しかしながらその中であつて、たとえ日本語によつても民族の心を維持し伝えようとした文学者もいた。また、一見、体制に追随しているかのような文章でも、表面の文字づらの裏に、複雑な声をひそめている場合も少なくなかったのである。

さらにまた、一九三九〜四一年は朝鮮近代文学が最高の高みに達した時代でもあり、それらは、同時代に折をみて朝鮮人によつて日本語に訳されている。これらも自らの民族文化を日本人に誇る、ささやかな抵抗でもあつたことであろう。このアンソロジーに、翻訳作品も含めたのは、かつてない水準に達していた当時の朝鮮近代文学の一端を、多少なりとも提示できればとの思いからである。

近年、旧植民地、日本の占領地域での文学活動に対する関心が高まってきているが、多くは日本文学の補完という観点からであるように見受けられる。朝鮮文学においても、そうした観点から編まれた資料集、作品集がいくつか見られるが、本集は、あくまでも朝鮮文学の視点から編集されたものである。単行本を並べるといふことを極力避け、初出の採用を原則に、新聞・雑誌から採つたもののためである。研究の一助となれば幸いである。

二〇〇一年九月

推薦文

近代朝鮮文学の光と影

任展慧



二十二月

大東亜戦争一周年
戦時下迎年の準備
大東亜文学者座談會
編輯

創作篇(主要収録作品)

第一卷(小説)一九三九年五月〜一九四〇年四月

- 新しき日(1) (2)「東洋之光」金耕修
- 光の中に「文芸首都」金史良
- 無明「ワタン」日本「李光洙
- 秋「ワタン」日本「俞鎮午
- 土城廊「文芸首都」金史良
- 苗木「朝鮮小説代表作集」李箕永
- 崔老人伝抄録「朝鮮小説代表作集」朴泰遠
- 農軍「朝鮮小説代表作集」李泰俊
- 心相触れてこそ(1) (5)「緑旗」李光洙
- 鐵路「京城日報」李孝石
- 他4編

第二卷(小説)一九四〇年四月〜一九四〇年九月

- 乱啼鳥「李光洙短編集」李光洙
- 山寺の人々(1) (7)「京城日報」李光洙
- 箕子林「文芸首都」金史良
- 天馬「文芸春秋」金史良
- ほのかな光「文芸」李孝石
- 草深し「文芸」金史良
- 夏「文芸」俞鎮午
- 蝶「早稲田文学」俞鎮午
- 心紋「ワタン」日本「崔明翊
- 無窮一家「改造」金史良
- 地脈「朝鮮文学選集」崔貞熙
- 他2編

第三卷(小説)一九四〇年九月〜一九四一年八月

- 摸索「朝鮮文学選集」韓雪野
- をやり「芸術科」大沢達雄(金達寿)
- 幻の兵士「国民総力」崔貞熙
- 謙虚「朝鮮文学選集」安懐南
- 汽車の中「国民総力」俞鎮午
- 光冥「文学界」金史良
- 温室「朝鮮画報」安懐南
- 春衣裳「週刊朝日」李孝石
- 郷愁「文芸春秋」金史良
- 福男伊(ボクナミ)「週刊朝日」俞鎮午
- 兎物語「福徳房」李泰俊
- 天使「福徳房」金史良

主要作家の略歴

李光洙(イ・グワンソ) 一八九二年〜一九五〇年没。平安北道定州生まれ。幼名實鏡(ボギョソ)。号は春園(チユン)。創氏名香山光郎。近代朝鮮を代表する文学者。日本留学中、最初の小説で日本語による短編「愛か」(一九一九年)を書く。一七年には代表作の長篇「無情」を、『毎日』紙に連載。三十七年の修養同友会事件後、親日的な立場に傾斜する。朝鮮戦争中拉北。五〇年に病死したとされる。

俞鎮午(ユ・ジン) 一九〇六年〜一九八七年没。ソウル生まれ。作家で法律学者。号は玄民(ヒョミン)。京城帝大在学中から活動。当初は同伴者作家とみなされるが、カブ解散後は市井の生活を描いた世態小説などを書く。代表作の「金講師とT教授」(三五年)は当時のインテリの苦悩をよく描き出している。解放後は大韓民国の憲法草案を起草するなど法学者、政治家として活躍した。

林和(ム・フア) 一九〇八年〜一九五三年没。ソウル生まれ。本名仁植(インシク)。詩人・評論家。プロレタリア文学の中心人物。二九年東京留学。帰国後カブ書記長として活躍。代表作「雨傘さす横浜の埠頭」は中野重治の「雨の降る品川駅」への応答歌として知られる。解放直後、朝鮮文学建設本部を作り、幅広い民族文学の共同戦線を形成しようとするが失敗し、四七年一月に越北。五三年八月、南労党粛清時に処刑される。

金史良(キム・サリヤン) 一九一四年〜一九五〇年没。平壤生まれ。本名時昌(シヤン)。作家で在日朝鮮人文学者の嚆矢とされる。三三年旧制佐賀高に留学、東京帝国大学独文科に進む。三九年、代表作の「光の中」を『文芸首都』に発表。翌四〇年上半期の芥川賞候補作に選ばれる。解放後は故郷に帰り、北朝鮮文壇で活躍。朝鮮戦争の開始と同時に従軍作家として南下するが、撤退時落伍、消息を絶つ。

文、大会発言など、当代のさまざまな発言が採録されることになった。

〈内鮮一体〉イデオロギーがもたらした傷痕がいかにも深いものであるか、昭和期の日本文学研究はこれまで朝鮮文学研究者から多くを学んできたが、いままた、居ながらにして稀観の朝鮮文献を繙読でき、半島非常時の言説編成を把握できるといふ、ぜいたくな恩恵に浴したのである。

「強要した者の恥辱は強要された者の恥辱の何百倍であるかもしれない」とは『親日文学論』（林鍾国）訳者解説の中の大村益夫氏の言葉である。アメリカの強権的な支配下を（平和）とみなし、戦争最大の責任者が「象徴」となって取引された自由を、自主的解放と錯誤した「戦後」が、植民地支配の犠牲を忘失してきた、同じその「恥辱」をこれ以上重ねないために、昭和期日本文学研究はこれまでの研究の欠如を埋めるべき行為を求められている。

（なかやま かずこ・前明治大学教授）

本作品集「第一期」の編集方針と特色

▼作品は（一九三九年から一九四五年八月二五日）に、朝鮮及日本国内で発行された雑誌・新聞に発表されたものの中から、初出のものを精選して収録した。

▼作品選択にあたっては、作品の質を重視し、最初から日本語で書かれた作品ばかりでなく、日本語に翻訳された作品も対象とした。

▼近代日本文学の補完という観点ではなく、近代朝鮮文学の視点で編集した。

▼構成は創作篇と評論・随筆篇とし、その内容は次の通り。

創作篇—小説（〇二編）、詩・短歌（二五編）、戯曲・シナリオ（三編）、童話・童謡（五編）
評論・随筆篇—評論（二三編）、随筆（四五編）、座談会・対談（七編）、紀行（二編）、

社説（二編）、書簡（二編）、日記（二編）、他（二〇編）

▼収録作家人数は一四一人、採録新聞・雑誌・単行本数は五九紙（誌）にも及ぶ。又、新たに発掘した資料や、今日閲覧が困難な作品も多数収録した。

▼植民地下朝鮮の諸問題が作品の主題として取り上げられており、歴史研究者が当時の朝鮮社会の内情や朝鮮知識人や民衆の被抑圧者側の心情を汲みとる上でも貴重な資料。

▼近代朝鮮文学研究の第一級資料にとどまらず、近代日本文学研究や在日文学の系譜を辿る上でも貴重な資料群である。

評論・随筆篇（主要収録作品）

第一卷（評論）一九三九年二月—一九四三年四月

朝鮮の知識人に訴ふ「文芸」張赫宙

張赫宙氏へ朝鮮の一知識人として「帝国大学新聞」玄民

朝鮮の現代文学（1）（3）「京城日報」林和

師への、兄への（1）（6）「京城日報」金竜済

朝鮮に忘れられぬ人々の思ひ出（1）（7）「京城日報」金東煥

内鮮一体と朝鮮文学「朝鮮」春園生

同胞に寄す（1）（8）「京城日報」香山光郎

文学新体制下の目標「緑旗」崔載瑞

ありかた談義（1）（4）「京城日報」金鍾漢

主題から見た朝鮮の国民文学「朝鮮」俞鎮午

大東亜文学者大会の発言（1）（4）「京城日報」香山光郎他

他70編

第二卷（評論）一九四三年四月—一九四五年三月

転換期の朝鮮文学「人文社刊」崔載瑞

海ゆかば（上）（下）「京城日報」崔載瑞

朝鮮文壇の水準向上「朝日新聞中鮮版」俞鎮午

詩壇三十年「新時代」松村紘一

戦争と文学「新時代」香山光郎

戦時下の満州「朝光」牧洋

朝鮮文学の新方向「文学報国」張赫宙

戦ふ農村と文化問題「京城日報」李無影

他57編

第三卷（随筆、座談会・対談、その他）

一九三九年一月—一九四四年一〇月

随筆 秋風と共に（1）（6）「京城日報」崔載瑞

随筆 初冬雑記（1）（4）「京城日報」林和

随筆 内鮮一体随想録「協和事業」李光洙

随筆 私の旅日記から「京城日報」崔承喜

随筆 山の神々「文芸首都」金史良

随筆 林美美子と私「三千里」崔貞熙

座談会 朝鮮文化の将来「文学界」

座談会 見て来た海軍生活を語る「国民総力」金史良他

紀行文 北鮮紀行「緑旗」金村竜済

文化消息 朝鮮の詩人たち「文化朝鮮」金鍾漢

他164編

東洋之光

東亜新建設大特輯

五月號

行發社光之洋東城京

近代朝鮮文学の最も暗黒の時期の作品を集成

大村益夫・布袋敏博編・解説

近代朝鮮文学

日本語作品集

第一期 一九三九年～一九四五年 全九卷

創作篇(全六卷)—— 第一回配本(二〇〇一年一月刊)

- 第一卷 小説 一四編 四一〇頁
- 第二卷 小説 一三編 四四〇頁
- 第三卷 小説 二三編 四一〇頁
- 第四卷 小説 二七編 四一〇頁
- 第五卷 小説 二五編十解説 四〇〇頁
- 第六卷 詩・短歌、戯曲・シナリオ、童話・童謡

二九九編十解説 四二〇頁

〈体裁〉編集復刻版・A5判・上製クロス装・ケース入り

第一回配本価格◆本体68,000円十税 (分売はいたしません)

ISBN4-89774-031-2 C3097

評論・随筆篇(全三卷)—— 第二回配本(二〇〇二年三月刊)

- 第一卷 評論 八一編 三九〇頁
- 第二卷 評論 六五編十解説 四五〇頁
- 第三卷 随筆、座談会・対談、その他〔紀行、社説、日記、書簡、ほか〕一七四編十解説 四七六頁

〈体裁〉編集復刻版・A5判・上製クロス装・ケース入り

第二回配本価格◆本体36,000円十税 (分売はいたしません)

ISBN4-89774-032-0 C3097

第二期刊行のご案内



大村益夫・布袋敏博編・解説

近代朝鮮文学

日本語作品集

第二期 一九〇二年～一九三八年 全五卷

創作篇(全三卷)—— 第一回配本(二〇〇二年一〇月刊)

評論・随筆篇(全二卷)—— 第二回配本(二〇〇三年三月)

※刊行予定ですので、内容・刊行日等につきましては若干の変更がある場合がございます。ご了承ください。

緑蔭書房

東京都板橋区板橋1-13-1 ☎03(3579)5444

●下記の書店にお申込み下さい。

